



－ 共通台本 －

＝ 【収録メモ】このシーンはレティの家から始まります。他のシーンより若干柔らかく演じてください。

cha0001 レティ

「ふーんふーんふーん。よし、できた！ ふふっ！ 料理なんて久々だけど、彼の口に合うかしら……？ あっ、そうだ。この前もらった美味しいワインがあるんだっ  
た。赤と白、どっちが好みかしら？」

cha0002 レティ

「ねえ、ワインなんだけど……！ あら、いないわね。寝室かしら？」

cha0003 レティ

「ねーえ？ きゃあっ！ びっくりした」

cha0004 レティ

「……ビデオカメラ？ やだ、そんなに映さないで。恥ずかしいわ。可愛いって……もう。……動画なんだから何か喋ってほしい、って……。こういうときって、何を喋ればいいの？」

cha0005 レティ

「なんでもいって、それが一番難しいのよ！ 自己紹介？ ……えーと、レティです。年齢は秘密。おとめ座の▽型です。好きな食べ物はチーズで、苦手な食べ物はレバー。そう、実は苦手なの。知らなかったでしょう？」

cha0006 レティ

「えっ！？ もっと？ もう話すことなんてないわよ。あなたが質問するの？ いいわよ。なんでも聞いて。 は、初体験！？ そんなこと言えないわよ！ だめ！ 撮るのやめて！ そうしたら答えてあげるわ」

cha0007 レティ

「なんでも聞いてとはいったけど……。知っているくせにどうして聞きたがるの？ 私の口から言わせたいって……もう」

cha0008 レティ

「……初めての相手はあなたよ。……この部屋の、そこにある、密際のベッドでしたの。月がとっても綺麗な日だった」

cha0009 レティ

「初めてだったから、痛いかと思ってたの。ドキドキしてるのに、とっても怖くて……。初めてだからこそ、あなたに嫌われないようにうまくやらなきゃ！ って勉強もしてたんだから」

cha0010 レティ

「でも、あなたがとっても優しくしてくれて、全然痛くなくて」

ニ【収録メモ】次第に熱っぽく、色気のある喋り方にシフトしてください。

cha0011 レティ

「……そうね。気持ちよかったわ。こういうコミュニケーションは大切だって聞くけど、やっぱり恥ずかしいわね。……好きな体位！？ 今後の参考にするって……。そうよね、大事なことよ、ね？」

cha0012 レティ

「……前からぎゅっ！ ってしてもらうのも好きだけど、後ろからあなたに乱暴されるのも好きだわ。その、イケナイ事してる感じがイイって言うか……。もう、その顔やめて。顔から火が出そう」

cha0013 レティ

「一番興奮したプレイ？ もう、知ってるくせに！ どうしてそんな意地悪な質問ばかりするの！？ ……あなたに調教されたことよ。……もっと詳しく？ だめ、言えないわ。仕事の話はしない」

cha0014 レティ

「あんっ！ こーら。胸をつつかないの！ ドキドキしてるって……。あなたが変な質問ばかりするからでしょう？ だめよ、そんなことしても話しません！」

cha0016 レティ

「絶対にばれないようにする？ あなたが言うと言得力があるわ。でも、凄腕のスパイが、そんなことに力入れないの！ んっ、もう、えっちな触り方しないで。そんなことされたら、私もそういう気分になっちゃう」

cha0016 レティ

「……ズルい人。わかったわ。でも、絶対にばれないようにしてね。こんなものが流出したら恥ずかしくて外を歩けなくなっちゃうもの。……コホン。あれは、ある組織に……そう、あなたと一緒にゲート社に潜入したときのことよ」

cha0001 ナレーション(テレビ) 「よりよい社会の入り口に。安心・安全をモットーにゲート社では日夜、新薬の研究が続いています」

cha0017 レティ 「(聞こえのいいことばかりね)」

cha0018 レティ 「(政府から依頼され、このゲート社に潜入して早一か月。表の顔とは違い、少し探っただけでも危険な会社や組織との繋がりが見えてくる。政府に持ち込まれたある情報。この会社が製造しているという薬品は本当に存在しているのか。私たちはそれを確かめなければならない)」

＝ 【メモ】少し間  
＝ 【収録メモ】潜入捜査中のレティは明るく、快活に人当たりよく。

cha0019 レティ 「ハイ！ リッキーおはよう！ ええ、おかげさまで仕事にも慣れてきたわ！ さっそく仕事があるのね？ その段ボールを第三倉庫に。わかったわ。いいえ、大丈夫！ 一人でも平気よ！ ……実はまだ、社内の構造を覚えてないの」

cha0020 レティ 「ええ、そうなの。だから散歩がてらちょっと行ってくるわね。寄り道なんてしないわよ！ 素敵な人に出会ったらどうなるかわからないけど！ それじゃ、行ってくるわね！」

cha0021 レティ 「(……ふう。ようやく一人になれた。荷物を運ぶという口実は得たけれど、ヘタに動くのも危険、か。情報によれば、ゲート社は南米の麻薬カルテルや戦争屋と繋がっているともあった)」

cha0022 レティ

「(この施設にもいくつか保険をかけているに違いない。時間をかけて探っていけば必要な情報はかならず入手できる)」

cha0023 レティ

「(とはいえ、私の支給されたIDではほとんどの部屋に入ることができない。となればまず最初に入手すべきは管理者IDか……)」

cha0024 レティ

「(誰か来る。ドアから離れないと……。あの人は、そうだ。スティーブ。人事部の上司ね。あの人に貸してもらうことにしましょう)」

cha0025 レティ

「ハイ！ 面接のときはどうもありがとう！ ええー、と。そう、スティーブ！ 忘れていたわけじゃないのよ。ええ、ようやく新しい職場にも慣れてきて、今日は仕事ももらったの。ただ、ちょっと……迷っちゃったみたい」

cha0026 レティ

「第三倉庫つてところに行きたいんだけど。いいの？ ありがとう！ とつても助かるわ！ あなたつて優しいのね。じゃ、行きましょ！ え、違う？ そっち？ やだ、はずかしい！ え？これも持つてくれるの？」

cha0027 レティ

「ありがとう。あなたつて、とっても優しいのね。触ってもいい？ ほらやっぱ、すごく硬くて、がっしりしてる」

cha0028 レティ

「(今だわ。IDを……よし、盗れた！)」

cha0029 レティ

「……あ、アレね、第三倉庫！ ドアは私が開けるわ」

cha0030 レティ

「ええ！　ここまでで大丈夫よ、ありがとう！　……あら、こんなところでデートのお誘いを受けるなんて、ラッキーだわ！　でも、今はこっちの仕事をしなきゃいけないから、あとで連絡してもいいかしら？」

cha0031 レティ

「ええ、私も楽しみにしてるわ。また後でね！」

≡【メモ】少し間

cha0032 レティ

「さてDのコピーを作らないとね。この部屋、カメラが付いてない。ここで作業しちゃいましょうか」

cha0033 レティ

「……っ！」

cha0034 レティ

「（腕を、掴まれた……！　誰っ！？　もうばれたの！？　いいえ、早すぎるわ）」

cha0035 レティ

「……なんだ、あなただったの。フェイスレス。驚いた。急に抱き着いて来るなんて、なあに？　なにかあった？　私の方は順調よ。ああ、ごめんなさい」

cha0036 レティ

「先にDのコピーを作らないと。悪いけど、話しは作業をしながらでもいいかしら？　……俺を信じろ？　どういふことなのっ！？」

cha0037 レティ

「っ……！　なっ、に……をつ……！　その……薬は……」

cha0038 レティ

「（だめ……視界が、ぼやけて……）」

≡【メモ】気絶したレティが目覚めるシーンなので間に少し間を入れる。

cha0039 レティ

「(ん……、冷たい。……それに、硬い。これは……そうだ、私、彼に薬を吹きかけられて……。……はどい？ 誰もいない。何もない白い部屋に監視カメラ。他は……ダメね。起き上がれない)」

cha0040 レティ

「(ど)丁寧に、後ろで手も拘束されているし。捕えられたとみて間違いない。……でも、なぜ？)」

cha0041 レティ

「(思考にふけっていると、見覚えのある人物が部屋へと入ってきた)」

cha0042 レティ

「……裏切ったのね、フェイスレス。でも、なぜ私が生きているのかしら。何か知りた  
いことでもあるの？ ……優秀な仲間が欲しい？ 世界一のスパイにそんな風に言われ  
るなんてね、光栄だわ」

cha0043 レティ

「あなたも馬鹿よね。たとえどれだけ優秀なスパイでも政府を裏切ればただじやすま  
ない。何故そんなリスクを負ったの？」

cha0044 レティ

「……そう、そっちにも大物が付いてるってわけね。でも私を捕えたのは失敗だった  
わ。私の仲間はすぐにあなたに行きつく。そうなれば、ゲート社は終わり。あなたたち  
もみんな捕まるの」

cha0045 レティ

「さあ、用は済んだでしょう。早く殺しなさい。……調教する？ 何を言っているの？  
私があなたに服従するなんてありえないわ。私はたとえどんな拷問を受けようと口を割  
らない」

cha0046 レティ

「あなたも同じスパイならわかるでしょう？」

cha0047 レティ

「その薬は……！ ……そう、それが噂の自白剤ね。探していたものをこの目で見れるなんて嬉しいわ。それとも、私に情報を渡したくてわざとやっているのかしら？」

cha0048 レティ

「くっー」

cha0049 レティ

「(自白剤を打たれた……。いいえ、これはチャンスよ。この薬がどれほどの効果を発揮するのか見極めないと)」

cha0050 レティ

「製薬会社が自白剤を作ろうとするなんて、笑えるわ。人間の脳はそう簡単につくりじやない。欲しい情報だけ吐かせることなんて、できるはずが……っ！？ あっ……うつ、ぐう……」

cha0051 レティ

「(っ………！ アルコールを長時間摂取した時みたい。さすがに、これはきついわね。……この薬についての情報はある程度までは目を通した)」

cha0052 レティ

「(正確な情報を入手するためには相手を屈服させるのが一番手っ取り早い。拷問、絶食、不眠。方法は数えきれないほどあるけれど、行うには適切な知識と経験が必要。……でも、それではコストが高すぎる)」

cha0053 レティ

「(だからゲート社は新薬の開発に着手した。コンセプトは服従)」

cha0054 レティ

「(原理はわからないけれど、投薬された人間は【奴隷】となり、薬が切れるまで【主人】の言葉に屈して従うことしかできなくなる。……まさに、服従の薬だわ。でも、まだ未完成のはず)」

cha0055 レティ

「残念ね、大したことない薬だわ。この程度なら政府も私を派遣する必要なんてなかったのに。……何を笑っているの？」

cha0056 レティ

「近づかないでっ！ やめな、さい……。私に、触らないで……！」

cha0057 レティ

「(大きな手が、身体をまさぐっていく……。薬のせいなの？ いつもより、あそこが濡れて……。これは、いったい……。だめ、身体に力がいらない……)」

cha0058 レティ

「こ、れは……。なに……。調教、やく……。？ 【主人】と接触することで活性化？ 【奴隷】の感度が上がっていく……。？ そんな薬、あるわけ……。あつ、くう……。！」

cha0059 レティ

「(お尻を揉まれるだけで気持ちいいなんて……。これが調教薬の効果なの……。？ いま、あそこに触られたら、私……)」

cha0060 レティ

「(っ……。！ 指が、あそこの形を確かめるみたいに、なぞってくる……。そんなに優しく触られたら、声が……。あつ、だめ……。クリに、クリに触られちゃう……)」

cha0061 レティ

「あつ……。、無駄なことは、やめなさい。調教薬なんてないんでしょう？ くっ……。んっ……。思い込みを利用して騙そうとしても、無駄、よ……」

cha0062 レティ

「(あつ、ああ……。！ クリを、こねるの、ダメ……。！ 気持ちよすぎて、なにも、考えられなくなっちゃう……。！ 平常心を保たなきゃいけないのに、息が、あがって……。！)」

cha0063 レティ

「(触れたところから、熱が広がっていく……。火照りが消えてくれない……。このまま触られてたらイツちゃう……。あつ……。！ 次は、中に指が……。！ 太いのが、乱暴にはいつてくる……。！)」

cha0064 レティ

「っ……。！ はあ……。、んっ……。、ふう……。」

cha0065 レティ

「(ああっ！ 中が、ぐちよぐちよにされてる……。！ ダメ、ダメよ、耐えないとっ。こんなところで屈服するなんて、絶対にだめ……。！ でも、こんなえつちな触り方されたら、私、もう、イツ……。！)」

cha0066 レティ

「(……。え？ やめた……。？ これで、終わり、なの？ だめ、身体が、欲しがってる……。！ がまん、しなきゃ……。！)」

cha0067 レティ

「はあ、はあ……。 調教とは、よく言ったものね。性的拷問を利用して服従させる。でもいいの？ 私が薬の効果によって服従したかなんて誰にもわからない。演技であなたを欺く可能性もある。……。こんなことを続けても意味はないわよ。私は、誰にも屈したりはしない」

cha0068 レティ 「(……どれくらい眠っていたのかしら。周囲に変化はない。でも、まだ身体が火照ってる……。っ……!？ 破れた服が擦れるだけで感じちゃう……!)」

cha0069 レティ 「(っ、ドアが開いた……。誰?)」

cha0070 レティ 「……フェイスレスっ! ……何の用かしら?」

cha0071 レティ 「(睨みつけながらそう言うと、彼は微笑みながら唇に指をあて、監視カメラを見上げた)」

cha0072 レティ 「……偽の映像を流してる? もー、危ない事ばかりするんだから。でも、助かったわ。ありがとう。まずは手錠を外してもらえるかしら?」

cha0073 レティ 「んー! やっと身体を伸ばせる。なあに? その顔は。作戦の概要については理解しているつもりよ。私を差し出し、信用を得たあなたが情報を抜き取る。そういう作戦なのよね?」

cha0074 レティ 「さらにもう一步踏み込んだ推理をしましょうか。あなたが何の連絡もなく行動を起こしたということは、政府にもゲート社のスパイが潜んでいる。あたり? ふふつ、貴方が驚くなんて。気分がいいわ」

cha0075 レティ 「安心して、あなたのことならなんでもお見通しなんだから。それで? 何か相談? ……私のことが心配だったって。も、もう。あなたって人は! 急に薬を吹き付けられた時はおどろいたけど、大丈夫よ」

cha0076 レティ

「私たち二人で作戦を成功させましょう。敵のスパイの尻尾を掴み、ゲート社を徹底的に潰してやるの。それがかなうなら、この先の拷問にも耐えてみせるわ」

cha0077 レティ

「……だって、あなたと一緒になんだもの。私はあなたを誰よりも信じてるもの」

cha0078 レティ

「大丈夫よ、息が荒いのは薬のせい。認めたくないけど、調教薬は本物みたいね。今もまだ、身体が熱いわ」

cha0079 レティ

「【主人】との接触で【奴隷】の感度が上がっていくって言っていたけど、それって性的なものだけ？ それとも普通の接触もダメなの？」

cha0080 レティ

「例えば、手と手が触れ合ったりとか。……そう、投薬されているとそれだけでも感度が上昇するのね。投薬がない場合は？ 主人の体液を摂取することで感度が上昇する、か。そっちの効果はどれくらい続くの？ ……三カ月！？ 長すぎるわよ……」

cha0081 レティ

「え。sexすると薬の効果も延長されるの？ ……例えばだけど、投薬後、8日目に【主人】とセックスしたら、そのあとの8日間も感度が上昇したままになるってこと？ はあ……。どうしてその知識をもっと有用なことに使えないのかしら。この薬が流通してしまったら三カ月の縛りがやつかいになるわ。快樂に弱い人は多いしね」

cha0082 レティ

「理には適ってるけど……作ったやつはとんだ変態だわ。あんつ、ちょっと、なに！？ 急にお腹に触らないでよ！ この痣は……。これが投薬の証なのね。視認できるのは便利だけど。……ええ！？ 【主人】との接触で濃くなっていく？」

cha0083 レティ

「……あー、もういいわ。言わないで、読めたもの。どうせ濃くなることに感度が高くなるんでしょう？ ……ファンタジーね、淫紋みたい……えっ！？ なんでもないわ。なんでも！」

cha0084 レティ

「他にも危険な薬がありそうだし、調査を続けて。気づかれても厄介だし、そろそろ……。……？ どうしたの？ あっ！ ちょっと、こんなところで抱きしめるなんて、だめ……。任務中なのよ……。はあっ……ん……」

cha0085 レティ

「薬のせいで、あなたに触れるとすぐに熱くなっちゃうの……。あなたのも、すごく大きくなってる。そう、私に意地悪して興奮しちゃったの……？ 悪い人ね。本当はね、私も、ココが苦しいの」

cha0086 レティ

「拷問のときには、イカせてもらえなかったから。ねえ……私のココ、どうなってるかしら？ あなたの手で、確かめてくれる？ ……んっ、ああ、やっぱり、あなたの手、素敵だわ……。はあ……んっ……」

cha0087 レティ

「あなたに触れるとね、身体に電撃が走って、びくびくするのが抑えられなくなるの。ふふっ、拷問の時と同じ触り方してるでしょう？ わかるわよ。いつもより乱暴にっ……。してたでしょ？なのに、すごく感じるの」

cha0088 レティ

「あっ、ちょっと、だめっ……。そこ強くこねるの……。！ んっ、ああっ、うそ、指も一緒に挿れるなんて、やあ……。！ んっ……。あっ、足、がくがくする。立ってられない……。！」

cha0089 レティ

「いやっ、すぐイッちゃう……。あっ、もう、手、止めて……。！ んっ……。！ くう……。！、ふっ……。あっ、ん……。！」

cha0090 レティ

「はあ、はあ……酷いわ。こんな風にするなんて。あつ、ちょっと、どうして足を抑えるの!? だつ、だめ! そんなところに顔を近づけないで! 今の私、臭いから、あつ、舐めちゃダメ、なのに……!」

cha0091 レティ

「舐めるのなんて、反則よ……。あなたの体液を摂取したら、薬の効果が強くなっちゃうのに……。ふう、ん……。これも仕事なの? 指で触られるのと、舌と、どう違うかを聞きたい? んっ! わかった、わ……!」

cha0092 レティ

「あなたに触れたところが、ずっと熱いわ。いつもなら、すぐに熱が離れていくのに、あなたは他の場所を愛撫していても、直接触られてないのに、触られてる時と同じくらい感じるの……!」

cha0093 レティ

「……そう、いつもより、敏感、なのよ。あなたの舌のざらつきとか、唾液のぬめりが、わかつちやう……。いつもは、触られてるところの気持ち良さにしか気がいかないのに、あなたの呼吸とか、体温とか、全部わかって!」

cha0094 レティ

「ぞくぞくするのが、止まらないの……。あつ、だめっ! 感じるのに、集中したから、も、ああつ、イツちやう……。んっ、はあ……。あなたも、苦しいの? でも、挿入れるのはだめ。……口でしてほしい? いいわよ!」

cha0095 レティ

「ずいぶん大きくなってる……。口でするのは初めてだから、その、上手じゃなかったらごめんね? んむ、ちゅっ。はむ、れろろ。じゅる、ぺろぺろ。もっほ、強く吸うの? んっ、じゅるる……。ほう(うう)……。ひもちいい(気持ちいい)?」

cha0096 レティ

「じゅる、んっ、がんぷある(頑張る)わね、あぐっ!？ んっ、もっと、奥まで入れるの……？ ロでするのがって難しいのね。頑張るわ。気持ちよかったら、頭を撫でてくれるの？ そうしたら上手にできるかも」

cha0097 レティ

「れろっ、んっ、ふっ、んんっ……！ ちゅばちゅば、じゅるる、ふふ……びくびくして、かわいい……じゅるる！ ん？ 離してほしいの？ もう出ちやいそう？ いいわ、私の口の中に出して。全部飲んであげるから」

cha0098 レティ

「はむっ、んぷっ、んっ、ちゅぱっ！ じゅるる、れろれろ、んっ……!？ あふいの、きてるう(あついのきてる)……。んっ、んんっ……ぐくん。ふふ、沢山出たわね。きもちよかった？ そう、それならよかった」

cha0099 レティ

「……もしかしてあなた、こういうプレイに興味があったの？ いつもより、大きかったし、その、家ではこんなことしなかったでしょ？ え、だから……もう、変なことを言わせようとししないで。言わなきゃだめ……？ うう……」

cha0100 レティ

「お、お互いの、大事なところを……舐めたりはしなかったでしょ……？ 嫌じゃないけど……。あれ、すぐドキドキして落ち着かないの。え？ ドキドキするのは素質がある証拠？ そんなはずは、ない……わよ?」

cha0101 レティ

「そろそろ準備をしましょうか。手錠をかけてくれる?」

cha0102 レティ

「ありがとう。身体？ 大丈夫よ、心配してくれてありがとう。どうせ拷問で感度も上がっちゃうんだし。今、本当のあなたと触れ合えたのがなにより嬉しいの。だから、心配しないで」

cha0103 レティ

「そうだ！ 今後はこんな風に顔を合わせる機会も減っていくでしょうし、合図を決めておきましょうか。あなたが私にキスをしたら任務成功。あなたが私の首を締めたら任務失敗、どう？」

cha0104 レティ

「調教をやめてほしいときの合図？ 必要ないわ。絶対ないもの。ありません。もう、しつこいわね。……そうねえ、挿入してほしいっておねだりしたら、とかどうかしら？」

cha0105 レティ

「でも、期待するだけ無駄よ。そんなこと絶対ないから。なあと、その顔は！ ない！ ぜーったいにないわ！」

cha0106 レティ

「(甘い時間は終わり、調教の日々が始まる。私を屈服させるための調教は偽りだとわかってるのに、身体は熱を帯びていく)」

cha0107 レティ

「っ……！ また、来たのね……。毎日毎日、飽きもせず。良い趣味だわ。こんなことをして、もしかして欲求不満なのかしら。可哀想に。誰にも相手してもらえないんでしよう。同情するわ」

cha0108 レティ

「こんな薬を、打ち続けても、意味はないわよ。はやく、諦める事ね。あなたに仕えれば、調教は終わる？ 馬鹿じゃないの？ そんなことありえない。……いまにご主人様と呼びたくなる？」

cha0109 レティ

「はっ！ なぁに？ そういう趣味だったの？ 気色悪い。あなたをそんな風と呼ぶくらいなら死んだ方がマシだわ。スパイなんてやめて小説家になったほうがいいんじゃない？ きつとよく売れる官能小説が書けるわよ」

cha0110 レティ

「……っ！ 急に、胸に触るなんて、女の扱いに慣れていない証拠ね。ママのおっぱいでも恋しくなったのかしら。あっ……、く、う……！ はあ、はあ……！ 感じてる？ そう、よ。薬のせいだね……！」

cha0111 レティ

「あなたに発情したわけでも、なんでもない。薬のせいだと、はあっ……認識できていれば、心が折れることはないもの……！ どれだけの、責め苦にだって、耐えられるわ……！ はっ、ああ……んっ、くっ……！」

cha0112 レティ

「(……と、言ってみたものの、だめだわ。私に遠慮してるのか、触り方が弱くて、なんか、すごく気持ちいい……！ はっ、だめだめ！ 表情をちゃんとつくらないと。って、ああっ！ 乳首、つままれちゃうー！)」

cha0113 レティ

「(……ああっ！ さっきまで弱い刺激を与えられていたせいか、芯を摘ままれると身体が、勝手に反応して……！ びくびく、しちゃう……！ だめっ、声を抑えられない……！)」

cha0114 レティ

「ああっ、ふっ、うう……！ はぁ……んっ……！」

cha0115 レティ

「(普段は気にならないのに、手錠のせいで、自分の身体が、どんな風に動いてるかわかっちゃう……！ 恥ずかしくて、情けないのに、この音が気にならなくなるくらい、ぐちゃぐちゃになりたいと思っている私がいる……)」

cha0116 レティ

「(あっ、だめ……また優しい触り方になってる……。いっそ強く触ってほしいのに……、目で、なんとか合図を送って……。ああっ！ だめえ、伝わってない……！ もっと優しくなってるうー！)」

cha0117 レティ

「(だめっ！ 来ちゃう！ すごいの、来ちゃうう……！ まだ、あそこに触られてないのに、トロトロになってるの、わかっちゃう……！ あぁ！ イっ……！)」

cha0118 レティ

「(うそ……またお預けなの……？)」

cha0119 レティ

「(……どうしたのかしら？ 慣れないことをして、手が疲れた？ 虚勢なんて張ってないわ。……イかせてほしければ、ご主人様と呼べ？ ……ぺっ！ あら、ごめんなさい。顔に唾をつけたような男を主人だなんて呼べないわ」

cha0120 レティ

「はうつ……！ はつ、はつ、ああ……！ ほら、ね……。この程度の、ことで、怒る男は、主人の器じゃないわ……。くっ……！ 近づいてこないで……！ 汚い顔を、近づけるな……！」

ニ【収録メモ】フェイスレスと内緒話。ひそひそ声で。

cha0121 レティ

「……ねえ、加減なんてしなくていいわ。やつらが疑わないように、もつとして。大丈夫」

cha0122 レティ

「ごめんなさい、嘘をついたわ。本当はね、興奮してきちゃったの。お願い……。私を従わせたいんでしょう？」

cha0123 レティ

「（あつ、ノツてきたわね……！ 後ろから、掴まれて……。抱きしめられた？ 違う、後ろから、あそこをまさぐられて……！ やだっ！ びしゃびしゃになってるの、ばれちゃう……！）」

cha0124 レティ

「（後ろで手錠を掛けられているせいで、動けない。ああ……！ 彼の視線を感じる……！ お尻を突き出して、全部丸見えになってるのに。こんな恥ずかしい恰好で、好き勝手されちゃうなんて……）」

cha0125 レティ

「（う、うそ……。なにか、熱いものが……。もしかして、おちんぽ？ もつとしても良いと言ったけど、そこまでしていいとは……！）」

cha0126 レティ

「ああっ……！ くっ、ぐう……！ はつ、あ。うう……！」

cha0127 レティ

「(イッキに奥までっ……！ 今まで、こんな乱暴な挿入、されたことない。はあ、はあ、だめ。くらくらする。はやっ、はやく動いてほしいのに、形を馴染ませるみたい  
に、奥で、止まったまま動かない。ずるい……！)」

cha0128 レティ

「はっ、ああ……！ なに、よ。結局あなたが、シタっただけなんじゃないの。趣味  
で、拷問をするなんて、スパイ失格ね……。あっ、ああ……！ はっ！ あなたの粗末  
なもので、感じるわけがないでしょう……！」

cha0129 レティ

「(ああっ！ だめっ！ やっぱいつもよりナカも敏感になってる。どこをどうえぐ  
られてるかがわかつちゃう……！ 熱いのが、愛液を混ぜながら、ナカを擦って……！  
っ！ 気持ちいいのが、身体中に広がっていく……！)」

cha0130 レティ

「(いつもなら、あまり感じない所も、気持ちよくなっちゃってる。全身が性感帯に  
なっちゃったみたい……！ 手前のところ、擦られるの、好きじゃないはずなのに…  
…！ お腹がキュンキュンして、締め付けちゃう……！)」

cha0131 レティ

「(それでも、まだ、薬の効果は十分に出てないのよね……？ これ以上、感じるよう  
になったら、私、どうなっちゃうの……？ ああっ！ だめ、普通のセックスじゃ、い  
つもみたいに素直になっちゃう……！)」

cha0132 レティ

「あっ、んっ、くうっ……！ はっ、ああっ！ 後ろから組み敷いて、腰を振るなん  
て、んんっ！ 犬、みたい、ね……！ ああ、ごめんなさい。あなたと一緒にするなん  
て、犬に、失礼だったわ。はっ、あっ、ああ……！ 痛っ……！？」

cha0133 レティ

「(お尻を、叩かれたっ！)」

cha0134 レティ 「何をするのよっ！ あっ、ああっ！」

cha0135 レティ 「（くっ……大きな手のひらが、お尻を叩いて……！ じんじん、しびれる……！ 痛いの、刺激が、気持ちよくて、お腹がキュンキュンする……！）」

cha0136 レティ 「（痛めつけられるセックスって、こんなに気持ちいいの！？ それとも、調教薬のせいなの？ くう、んっ！ やだ、気持ちよすぎて、顔を上げられない……！）」

cha0137 レティ 「（でも、身体を伏せると、お尻を突き出しちゃうから……！ あっ、あっ、ああっ！ やっぱいい！ ピストンがスムーズになって、深いところまで、はいってくるぅ……！）」

cha0138 レティ 「（こんなに奥まで我慢汁を塗り込まれたら、また、感度があがっちゃう……！）」

cha0139 レティ 「（やつ、ああっ！ 逃げようとしても、腰を掴まれて、逃げられない……！ さては、わかっててやってるわね……！ 痛いのが気持ちいいなんて、覚えたくないのに……！）」

cha0140 レティ 「（そんな意地悪するなら、やりかえしちゃうんだから！）」

cha0141 レティ 「案外、つまらないセックスをするのね。こんな風に、後ろから押さえつけて、腰を振って……！ 調教が、必要なのはあなたのほうなんじゃない……！ ほら、どう？ 私」

のナカ、気持ちいいでしょう？」

cha0142 レティ  
「ほら、きゅっ、きゅって締め付けられたら、ナカであなたのが膨らんで……！ あ  
んっ、音も、すごいわね。あなたのカウパーが、だらしく私のナカに入り込んで  
わ」

cha0143 レティ  
「（ほーら、どお？ こうやって、腰を振れば、すぐイッちゃうって知ってるんだか  
ら）」

cha0144 レティ  
「早く射精したいんでしょう？ いいのよ、男は快楽に逆らえないっ、生き物なんだから……！ ほら、はやく、私に屈しなさい……」

cha0145 レティ  
「（おっきくなってきたあ……。このまま中出しさせてあげる。悪い子には、お仕置き  
しちゃうんだから。っ……！？ あっ、はあ……なに？ このすごいピストン。あっ、  
あああ！）」

cha0146 レティ  
「（こんなの、知らない。こんな乱暴に、されたことないのに。今までは、優しくして  
た、だけっ？ これが、本当のあなたなの？ だめえ……気持ちよくて、なにも考えら  
れない……。んうっ、腰を掴む力が強くなって、お腹に指が食いこんでる……！）」

cha0147 レティ  
「（挿入ってるのに、お腹が刺激されたら……！ あっ、ひっ！ ああ……！ 頭、ふ  
わふわする……！ びりびりして、気持ちいいっ……！ このまま突かれたら、中イ  
キ、しちゃうっ……！ っ……！？ なんか今、下腹部に違和感が……！？ 気のせい  
……っ）」

cha0148 レティ  
「（ううん、違うわ。おちんちんと彼の指で圧迫されてるから……。ど、どうしよう……  
……！ 意識したせいで、おしっこしたくなってきちゃった。なんで今なの……っ？）」

cha0149 レティ

「(潮吹きするときも、おしっこしたいときと似てるっていうし、そっちなのかしら。潮なら……ううん、だめよ、レティ！ 彼にそんなものかけるなんて……！ あうう！)」

cha0150 レティ

「(我慢、がまん……しなきゃ、いけないのにつ！ 痛いのと気持ちいいのが交互に来て、わけが、わからなくなつてき……あつ、だめ……力を抜いたら、出ちゃう……！)」

cha0151 レティ

「っ……！ 余裕が、ない？ そんなこと……！ ひいつ！ あつ、いたっ……！ やあ……！ どっちもするの、やめて……！」

cha0152 レティ

「(叩く手が、止まった……？ よかった。あんつ、お尻、撫でられてる。優しい手……嬉しい。ひっ……！？)」

cha0153 レティ

「あつ、いや、まって！ 今叩くの、だめっ！ でちや、出ちゃうから……！ やめてえ！」

cha0154 レティ

「(あ、あ、あ……！ おしっこ、でちゃった……！)」

cha0155 レティ

「だめっ、止まって……とまつ、とまらな……！」

cha0156 レティ

「(挿入されたままなのに、こんな……！ 恥ずかしい……！ おしっこにおい、彼に嗅がれちゃってる……！)」

cha0157 レティ

「(耐えてみせるって言ったのに、こんなはしたない姿を見せて……。きっと幻滅されちゃったわよね……。彼の前ではいつも可愛い私でいたかったのに)」

cha0158 レティ

「(……えっ？ さっきより、大きくなってる……？ どうして……！？ あっ、はあっ、そこ、私の好きな場所……！ 奥まで挿入れて、ぐりぐりされるの、弱いのに………！ あなたも、興奮してるの？)」

cha0159 レティ

「(そう、なのね。もう、本当にエッチなんだから……！ あなたが喜んでくれるなら、いいわ。私の恥ずかしいところ見て……！ おしっこを漏らしながら、おちんちんを咥えこんでる私の穴を、ぐちゃぐちゃにして……！)」

cha0160 レティ

「(はっ、ああ！ 乱暴に腰を、引き寄せられて、子宮にキスされてる……っ！ もう、イキそうなのね？ いいわ、いっしょに、イキましょう。私のおまんこで気持ち良くしてあげる……！)」

cha0161 レティ

「あうっ、くっ、はっ、はっ、あっ、ああ〜！」

cha0162 レティ

「(繰り返される調教により、肌の上に浮かび上がった痣はより濃くなっている)」

cha0163 レティ

「(なんて危険な薬なのかしら。そう思わなきゃいけないのに、この痣が彼に愛された証のようで、繰り返しその形を確かめてしまう)」

cha0164 レティ

「(身体の火照りが収まらない。辛さを感じないように、息をひそめて横たわる。なにも考えるべきじゃない。考えてしまえば、欲しくなる……)」

cha0165 レティ

「(……彼がやってきた。もう調教の時間なのね)」

cha0166 レティ

「(横たわったまま見上げると、彼は優しい笑みを浮かべて手錠の鍵を外した)」

cha0167 レティ

「どうしたの？ 監視も厳しくなってるんじゃない？……定期連絡？ あなたって人は。真面目なんだから。その後はどう？ ……内通者は彼女だったのね。残念だわ……」

cha0168 レティ

「……私の事なら気にしないで。警戒が高まるのは最初からわかっていたでしょ？ こんな風に会いに来るのはもうおしまいにしないと」

cha0169 レティ

「屈服したふりをすれば外に出られる？ なにを言っているの？ だめよ、そんなことしたら怪しまれるわ。スパイは敵に屈したりはしない」

cha0170 レティ

「……本当に優しいのね。大丈夫よ。合図は忘れてないわ。本当につらくて、あなたに助けてほしくなったらちゃんと言うから。安心して」

cha0171 レティ  
「でも……。ふふっ。あなたにもそう見えていたのね。……こんなこと言っているのかしら？ 私ね、すごく興奮しているの。本物の奴隷みたいに扱われて、意地悪なこともいっぱいされてるのに」

cha0172 レティ  
「……いつもより、感じちゃうの。私が抵抗することで時間を稼がなきゃいけないのに、あなたに屈服したくてたまらない」

cha0173 レティ  
「あなたと今までしてきたセックスは、優しくて、満たされていて気持ちよかった。……けど、あなたにひどくされるとね、ここがいつもより疼くの」

cha0174 レティ  
「薬のせいかしら。それとも、私に変になっちゃったのかも。こんな変態は嫌い？ ……ふふっ、そうよね。私を調教したのはあなただもの。どう？ あなた好みの女になれる？」

cha0175 レティ  
「すう……。あなたに抱きしめられるの、大好きよ。あなたの匂いに包まれて、幸せな気分になるの」

cha0176 レティ  
「でも、今日のあなたからは他の女のニオイがする。ねえ、誰を抱いてきたの？」

cha0177 レティ  
「怒ってなんかないわ。任務だもの。でも他の女のニオイがあなたについているのは嫌。だから、上書きするの。どんなふうに、誰を抱いたの？ 私に、教えて？」

cha0178 レティ  
「幹部の女と食事に行ったの？ 名前は？ オリヴィア……。思い出したわ、網タイツをはいてる彼女でしょう。赤いヒールを履いて、足が綺麗よね。誘ったのはどっち？ そう、彼女に誘われたの」

cha0179 レティ

「それで？ 食事に行って、車で送ったの。そうしたら、部屋に誘われた？ 本当に？ 車の中で何かあったんじゃないの？ 息が荒くなってる……。だめよ、嘘ついちゃ。車の中でシちゃったんでしょ？」

cha0180 レティ

「オリヴィアが膝の上に乗ってきたの？ こんな風に？ 密着して、胸を押し当てて…顔近づけて、お互いの吐息を確かめ合って…んっ、むうっ、はあっ、んっ、ちゅっ、ちゅぱっ」

cha0181 レティ

「それから、どうしたの？ 彼女があなたの服を脱がせたのね。いいわ、脱がせてあげる……」

ニ【メモ】少し間

cha0182 レティ

「さっきまでオリヴィアとしてたはずなのに、元気ね。いいこ、いいこ。それで、そのあとは？ お互いの身体を触りあったのかしら？」

cha0183 レティ

「……え、違うの？ すぐにいれたの？ 酔ってたからって、すぐには濡れないわよ。彼女ってばあなたのこと狙ってたのね。私と同じだわ」

cha0184 レティ

「（主人と奴隷の関係を作る薬……本当ならセックスなんてしちゃいけないのに、したくてたまらない。このままいけば、彼に抗えなくなっちゃう。でも少しだけ……少しだけなら、いいわよね？）」

cha0185 レティ

「私のココもね、もう準備ができてるの。ねえ、挿入してもいいでしょ？ 私もあなたのこと、食べたいわ。んっ……はあ……！ あなたの太いのが、はいってくるう……！ ふっ……。……っ！ ああっー！」

cha0186 レティ

「はあ、はあ……。んっ、全部、挿入ったあ。はあ……いいわ、腰が勝手に動いちゃう……。ねえ、キス、していい？ んっ、んむ、ふっ、はあ……んちゅっ、れろれろ、ずっ……………」

cha0187 レティ

「はあ、はあ……ふっ、美味しい。それじゃ、動くわね……。んっ、くうんっ、ああ……！ どう？ 私のナカ、気持ちいい？ いつもより熱くて、溶けちゃいそうなの？ いいわ、たくさん感じて……」

cha0188 レティ

「んっ、くっ、はあっ、あっ、んっ……それで、彼女はどんな腰使いだったの？ 足を立てて、上下に激しく？ 難しいわ……。あなたの手に掴まればいいのか？ こう？ あっ！ んっ、めんなさー」

cha0189 レティ

「あなたの手が大きいから、指を絡めたらどきどきして、感じちゃったわ……。んっ、そうね、これなら動けるわ。んっ、んっ、んっ、ふっ、あっ、はあ、んっ！」

29

cha0190 レティ

「あっ、ああっ！ この体位、あなたのが、すごく奥まで届く……。いつもなら、届かない、ところまで届いて、ふあっ、んっ、腰が、止まらない……。っ！」

cha0191 レティ

「ふっ、んんっ、すごい音してるう……。！ わかる？ あなたの事が欲しくて、私の口コ、こんな風になっちゃったの。こんな風に、ぐちゃぐちゃにしてほしくて、ずっと、待ってたのよ……。！」

cha0192 レティ

「どお？ オリヴィアのより、私のここのほうがいいでしょう？ ふっ、いいわ。もっと言って……。あなたに意地悪されるのも好きだけどね、褒められるのはもっと好きなの」

cha0193 レティ

「はあつ、あつ、ああ！ んんつ、顔が赤いわ。お酒のせい？ それとも、私？ あなたが私をえっちにしたんでしょう？ だから、ちゃんと責任をとってね。ご主人様」

cha0194 レティ

「あつ、あつ……！ あはっ！ これ、いいんだ？ 可愛い顔してる。才能なんてないわ。ぜーんぶ淫紋のせいよ。まだおしゃべりする余裕があるなんて、悪い子。悪い子のおちんちは、こうしちゃうわ」

cha0195 レティ

「ほら、ぎゅー！ って。んふっ、気持ちいいでしょう？ 他の女とのセックスじゃ、物足りなくなっちゃうように、私のおまんこを教え込んであげる。あつ、はあ、んっ…  
…」

cha0196 レティ

「ほらっ、ほらあ！ だめよ、黙っちゃ。ちゃんと声に出して行って？ 気持ちいいところ、私に教えて。そこをたっぷり愛してあげる。あつ、んんんっ、はあ……！」

cha0197 レティ

「あつ、あはっ……！ イキそう？ 我慢できないの？ いいわ、全部飲み込んであげる。精液、いっぱいちょうだい……！ んあっ！ ナカに、熱いのいっぱい、きたあ…  
…！ ああつ……んっ……はあ……はあ……」

≡ 【メモ】 少し間

cha0198 レティ

「どうしたの？ 心配そうな顔して。大丈夫よ。一度や二度の中出しじゃ感覚に大差ないわ。……もう一回はだめ。帰ってからの楽しみ、でしょ？ 積極的な私に惚れ直しちゃった？ ふふっ、よろしい」

cha0199 レティ

「ほら、はやく準備していかないとー」

cha0200 レティ

「っと、その前に。ちゅっ！ ……いってらっしゃい。お仕事、がんばってね」

cha0201 レティ

「日々を重ねるごとに調教は厳しくなっていく。頭がぼんやりとして、強がることもできない。なにをされても興奮して、腰を振ってしまう。なによりも驚いたのは、私の口からあんなに下品な声が出たこと」

cha0202 レティ

「(彼の調教が上手いからなのか、私に素質があるからなのか。本当は今すぐにでも彼に屈して、逞しい肉棒を突き立ててほしい)」

cha0203 レティ

「(欲望に身を任せずにいられるのは、彼が私を信頼して今回の任務に選んでくれたから。……皮肉ね、彼に調教されているからこそ、狂いそうなほどに昂っているのに。彼と一緒に居るからこそ素直になれない)」

cha0204 レティ

「(身体が、熱い。繰り返し迎える絶頂のせいで、体力が奪われているのがわかる。最近では調教の途中で気を失ってしまうことも多くなった)」

31

cha0205 レティ

「(だけど、眠りという短い安息はすぐに壊されてしまう……)」

cha0206 レティ

「……うつ。……また、気を失っていたのね。……っ!？ これは!？」

cha0207 レティ

「(手錠に鎖が……天井からつるされてる。くっ、足が、着かない! つま先立ちが、やっとなんて……。くっ、うう……)」

cha0208 レティ

「っ……! フェイスレス……! なに? ようやく、普通の拷問を始める気になったの? どちらにしても、無駄だけどね。なによ、その布は、あっ、やめ……!」

cha0209 レティ 「(目隠し……？ 何をするつもりなのかしら……。ああっ、指が、肌を撫でてる……)」

cha0210 レティ 「(目が見えてるときも、触られるだけで、くらくらしてたのに、視界を、奪われてるっ、から！ いつ触られるかわからなくて、身体が、びくびくっ、しちゃう)」

cha0211 レティ 「はあ、はあ、はあ……！ 今日は、静か、なのね。変態のあなたも、さすがに言うことが思い浮かばなくなった？ ……あなたに屈するわけがないでしょう。さあ、早く始めなさい」

cha0212 レティ 「ひっ、う……んっ！ 太もも撫でまわして、なにが楽しいのよ。挿入するなら、はやく挿入なさい。あっ、ああ……！ ん……？ あまい、におい？ それに、何かを開ける音がする……」

cha0213 レティ 「また、おかしな薬をもってきたの？ 飽きないわね、あなたも。特別製の、媚薬？ 調教薬と合わせて使うと、キメられる……？ はっ、そんなもの、使っても、意味がないわ。あっ、ああ……！」

cha0214 レティ 「ひいっ……！ んんっ！ 気持ちいいわけ、ないでしょう。足なんて、開いてないわ。嘘を、いわないで……！ あっ、ああ……！」

cha0215 レティ 「はっ、はあっ……！ 私、たちは……特別なあっ、訓練を……受けているもの、そんなっ、薬、効かないわ……！ ひあっ！ くう……！ どれだけっ、しても、無駄……なんだから！」

cha0216 レティ

「(あっ、ああ……！　なに、これ……！　身体中が、どくどく脈打って、全身に心臓があるみたい。絶対に触られちゃいけないところに、触られてるみたい……。こわいの、もっと触ってほしい……！　これ以上触られたら……あっ、おまんこが発情しちゃってる……)」

cha0217 レティ

「(雌のにおいさせて、おねだりしてるの、ばれちゃう。我慢しなくちゃ、だめ、なの。い。このままもっとおかしくなっちゃいたい……！)」

cha0218 レティ

「はあ、はあ……。……ひっ！　……んっ！　そんなにたっぷり塗り込んだら、だめえ……。ああっ、んっ……。ふっ……。うっ……。いやあ……。違うわ……。腰が動いちゃうのは、薬のせいなの……。！」

cha0219 レティ

「欲しがってなんてないわ。身体が、いうことを聞かないだけよ。ひあっ！？　なに。この冷たくて硬いのは……。ああっ……。ぐりぐり、したら、挿入っちゃう……。……押し込んでない？　嘘よ。違うわ、私が腰を振ってるわけない……！」

cha0220 レティ

「ああ！　はっ、くうんっ！　ああんっ！　奥まで、みっちり、挿入ってる……。やっ、うそ。中で、バイブしてる……。ぶるぶる、震えて、私の大事なところに、お薬塗り込んでる……。！」

ニ【収録メモ】喘ぎ声や荒い息はイクのを隠そうとしています。弱イキ、強イキ、息継ぎを三つくらいにわけて演じてください。

cha0221 レティ

「はっはっはっ……。んっ、ふー！　だめ……。こんなの、我慢できるわけない。ああっ……。っ！　ふー！　ふー！　はっ……。ああ……。イッたのに、ぶるぶるするの、とまらない……。！」

cha0222 レティ

「こんなもので気持ちよくなるなんて……あんっ！ んっ、振動しながら、ぐりぐりして……！ ひだをえぐってるう……！ 違うわ……。言葉に出しちゃうのは、あなたに服従してるからじゃないの……。ちがつ、口が、勝手に……。あぁっ！」

cha0223 レティ

「あそこが熱い……！ いや、いやぁ！ こんなので、ひうつ！ はっ、ふーっ、はぁ、はぁっ、んくっ！ 連続で、すごいきちゃう……！ あぁっ！ ふー！ ふー！ んぐっ、んああああ！」

cha0224 レティ

「あっ……！ はぁ、はぁ……！ イッて、なんか、ないわ……！ ほんとうよ。イッてない……。イッてないのお……！ あぁっ！ やめて、お尻、触らないで！ だめ、そんな汚いところ広げて見ないで……！」

cha0225 レティ

「やっ、やだぁ……！ お尻の穴、みないでえ……！ えっ、うそ！ うそ！ だめえ！ そっ、そんなところに、指を、入れないで！ あぁっ……！ 後ろの、穴に、指が、入っちゃってる……！」

cha0226 レティ

「んくっ！ やぁ……！ そこ、入れるところじゃないから、抜いてえ……！ んひっ！？ あっ、あぁ！ 一気に引き抜くやつ、だめえ……。ぐちゅぐちゅしないで……。そんな汚いところ、いじっても、なにも……。ひぁっ！ なに、いまの……。指で、撫でただけ？ 嘘よ、それだけでそんな風になるなんて」

cha0227 レティ

「(あっ、あぁ……！ そんな……お尻の穴、いじられるの気持ちいい……！ 指が引き抜かれると背中がぞくぞくして、ん、はぁっ、指で撫でまわされるとお腹がキュンキュンしちゃう。んっ、ふうう……！ このままじゃお尻も性器なんだって教え込まれちゃう……！)」

cha0228 レティ

「いやあ……！ もう薬、塗らないで……！ んくっ……！ おなか、いっぱい、苦しいの……！ 前のやつ、ぬいてえ！ 前に、挿入ってるやつ、だってば！ もっと、詳しく言え？」

cha0229 レティ

「あうっ……！ そうすれば、抜いてくれるの？ ……おまんこ！ おまんこに挿入してるおもちや、抜いて！ ねえ、お願いだから……！ あぐっ！ ……う、うそ……お尻にも、挿入って……！」

cha0230 レティ

「言ったら、抜いてくれるって、言ったのに……！ ああっ！ だっ、だめえ！ 後ろのおもちやの、スイッチ入れないで！ お願い、お願いよ……！ こんなのでイッたら、私、おかしくなっちゃう……！」

cha0231 レティ

「ひいっ！ あっ、あっ、あっ！ アナルの中で、おもちや、動いてる！ おまんこのおもちやと、お腹の中でぶつかって、まだ、中イキしちゃう！ すごい、くるう！ ああっ……んっ！ はあ、はあ……！」

cha0232 レティ

「やあっ！ おしりのおもちや、触らないで……！ ひいっ！ んっ！ 抜くの、だめえ……！ ぞくぞくして、足が、足が浮いて、おまんこが、もつと感じちゃうからあ……！ やめて！ もう、触らないで……！」

cha0233 レティ

「はあ、はあ……え？ わかった、って……。んあっ……！」

cha0234 レティ

「（やっとおまんこのバイブを抜いてもらえた。あとはお尻の……え？）」

cha0235 レティ

「まって、どこに行くつもりなの！？ はあ、はあっ！ 抜くのだめって言ったのは、違うの。ひっ、んっ、ふう……うっ、ううっ……！」

cha0236 レティ

「ねえ！ 行かないで！ お願いよ！ これ、抜いて。苦しいの！ ひぐつ、あつ、はつ！ ああ……！ もう、これ以上イケないからあ……！ あなたのおちんちんなら、好きなだけしごいてあげるからあつ！ んつ、くうつ！」

cha0237 レティ

「あつ、ぐう……、あつ、あつ、ああ！ お尻だけでイけるようになったら……そんなの、無理に決まって……！ あつ、ぐう……、あつ、あつ、ああ！ んつ、くうつ！ ふつ……はつ、ああつ！」

cha0238 レティ

「（本当に、行っちゃった……！ あつ、ああ！ お尻でなんてイケないのに。こんなことならおまんこに欲しかった。んくつ！ あつ、いまの。お腹、キュッて、しめるの気持ちいい……！ これなら、お尻でも、イけるかも。んんつ、ふー！）」

cha0239 レティ

「(素直になれないのがこんなにも辛いなんて知らなかった。いっそ、バイブを挿入れ  
たままにしてくれば、感覚も麻痺するのに。休息日があるせいで身体が焦れる)」

cha0240 レティ

「(彼に触れたい。愛されたい。……たった一言を口にすればいいだけなのに、ちつぽ  
けなプライドが邪魔をする。恋人としてではなく、仕事のパートナーとしても、彼の横  
に立てる女でありたい。彼が一番に頼れる女性<sup>ひメ</sup>になるためにも完璧に仕事をこなしたい  
……)」

cha0241 レティ

「(そうして今日も私たちは仮面をかぶる。敵のスパイという仮面。そして、【主人】  
と【奴隷】の仮面を……)」

ニ 【メモ】 少し間

cha0242 レティ

「……なにかしら、フェイスレス？ 私が、なにも言わないのがそんなに不満？ 毎  
日顔を突き合わせていれば、口数も少なくなるわよ。また、薬を持ってきたのっ……！  
やめっ、触らないで……！ ああっ！」

cha0243 レティ

「(はっ、ああ……！ 腕に注射を打ただけなのに、イツちやった……！)」

cha0244 レティ

「(この薬は、なに？ また媚薬なの……？ わからない……。だけど、身体が熱い…  
……)」

cha0245 レティ

「はぁ、はぁ……！ どうして笑っているの？ ……もう、一息？ そんなこと、ある  
わけないわ……！ こんな厳しい調教ばかりされて、堕ちる女なんているわけがないで  
しょう」

cha0246 レティ  
「優しくされたいのかって？ ありえないわ。そもそも、そんなありきたりの手口に引  
つかかったりなんて……」

cha0247 レティ  
「んぐっ……！」

cha0248 レティ  
「（顔を掴まれた……！？）」

cha0249 レティ  
「なにを……んむうっ……！」

cha0250 レティ  
「（んっ、キス、しちやつてる……。これは、任務成功の合図、よね？ うまくいった  
のね……。よかった。……やっど、素直になれる）」

cha0251 レティ  
「んっ、んっ、レロ、ちゅぱ……ちゅる、ちゅっ、ちゅ……んっ、ふう……」

cha0252 レティ  
「（大きい舌が、口の中を蹂躪してる。あったかくて、美味しい……！ ああっ……！  
あごの裏、舐められるの、いいっ！ ソクソクするの、止まらない……！）」

cha0253 レティ  
「（でも、これじゃ足りない。中にはしい……！ 身体がトロトロになる、中出しセッ  
クスがしたい……！）」

cha0254 レティ  
「んふっ……ふっ、あっ……！ はっ、むうっ……んっ！ ちゅっ、ちゅぱ。レロ、じ  
ゅるっ……！ ちゅっ！ んっ、はっ！ は——……は——……」

cha0255 レティ  
「（これで任務はおしまい？ ！）から出られるの？ それとも、まだだめ？ このま  
まお預けなんて辛いわ……）」

cha0256 レティ

「(あっ……、優しい手つき……。でも、なにも言ってくれない。まるで私が縋りつくのを待ってるみたい……。いやよ、あなたの思い通りになんてなってあげないわ。私にだって、スパイとしての意地があるもの)」

cha0257 レティ

「触らないで！ 私は、政府のエージェントよ。たとえ何をされたって、あなたの思い通りにはならないわ」

cha0258 レティ

「んっ……！ 胸に、触らないで……。違う、乳首が立ってるのは、薬のせいよ……。はあっ、んん……。あっ、ああ……。！ 下から、持ち上げるみたいに触って、ずるいわ。えっちなきぶんになる……」

cha0259 レティ

「んっ……ふう……。そこばかり、いや……。もうわかってるくせに……。本当に触ってほしいのは違ふところだって……。ひうっ、はあ……。あ……」

cha0260 レティ

「(はっ、はっ……。んっ、くう……。ああ……。！ だめ……。あそこが熱くなるのを我慢できない。触っちゃダメ、触っちゃダメなの……。！)」

cha0261 レティ

「あっ、ああ……。ふっ……。んんっ……。！ 我慢ができなくなったんじゃないわ。あなたにされるくらいなら、自分で気持ちいいところを触った方が、楽だから……。あっ、ああ！ まって、あなたまで触るのは、だめ……。ひいっ……」

cha0262 レティ

「いや……。！ おまんこの中で、あなたと私の指が絡まってる……。！ んっ、ふう……。！ あっ、ああ！ そこぐりぐりするの、弱いのお！ 私の指、勝手に使わないでえ……。！」



cha0270 レティ

「あつ、ああ……！ 恥ずかしいのに腰を、動かしちゃう。はしたないところ見られて、興奮しちゃってる。ふっ、んんっ！ はあ。っ……！ あつ、イク！ イク！ 連続で中イキしちゃうう！ あう、はっ………！ふーふー！ ……あつ！ ぐぐっ！」

cha0271 レティ

「はあ、はあ……。んっ、やだ………！ どうして離れちゃうの。ねえ、もつとして……。足りないわ……。あなたのことが、もつと……」

cha0272 レティ

「ご主人様のことがほしいの」

cha0273 レティ

「お願い……。シテもらえるなら、わたしなんでもするわ。おちんぽを舐めればいいのか。いいわ。はむっ……っ！ んっ、ふう………！ れろ、ちゅば………！ んんっ、ちゅば。れろ、じゅるっ………！ ちゅ、ちゅ！ んっ、ふ……。ちゅっ！」

cha0274 レティ

「(嬉しそうな顔しちゃって……。悔しいけど、調教は成功よ。んふっ、おちんぽおいしい。たくさん舐めて、元気にしてあげる。はあ、あむっ！ れろっ、ちゅっ！ んぶっ！、おちんぽみるく美味しい。ああっ、だめえ。興奮してきちゃった。おまんこ、せつなくていじっちゃう……。はやく硬くてあついのをぶち込んでほしい……)」

cha0275 レティ

「(なに？ 背中に文字が……)」

cha0276 レティ

「(フェラのあと退出する。私はしばらくの間、このまま待機……？ (こ)でお願いなんて、酷いご主人様ね。もっとプレイを楽しんでもいいじゃない。……でも、いいわ。少しだけ、待っていてあげる。そのかわり、あとでたっぷり褒美をちょうだいね)」

cha0277 レティ 「っ……！ ご主人様！ 来てくれるのを、待ってたわ」

cha0278 レティ 「ふふっ。なあに？ そんなに驚いた顔をして。私はあなたの【奴隷】だもの。【主人】を出迎えるのは当然だわ」

cha0279 レティ 「ねえ。フェイスレス。ここに来たのが私以外でもあなたは【奴隷】にしたの？ えっちな調教で骨抜きにして可愛がった？」

cha0280 レティ 「……私だから？ 他のエージェントならしなかったの？ ……そう。ふふっ、いやらしい人ね。いつから私の事をそんな目で見てたの？」

cha0281 レティ 「紳士の顔をしながら、雌奴隷になった私を想像して、オナニーしてたんでしょう？ 一人でおちんぽをしゃごいて、腰をカクカクさせて……」

cha0282 レティ 「可哀想なご主人様。でも、もう我慢なくていいわ」

cha0283 レティ 「好きなだけ、私の身体を食っていいの」

cha0284 レティ 「……身体が火照ってたまらないのよ。わかるでしょう？ だからはやく、しましちゃうっ。」

cha0285 レティ 「なあに？ ご奉仕してほしいの？ いいわ、たくさんしてあげる。そのかわり、私にもたくさんご褒美をちょうだいね？！ ふふっ、ご主人様のおちんちん、しばんでかわいい……。私が大きくしてあげる」

cha0286 レティ

「んっ、れろっ！ ちゅ……！ ぺろぺろ……。たまも、すき？ いいわ、触ってあげる。はむっ！ ちゅっ、れろ……ぺろ、ぺろ、れ……！ んん、おっきくなってきた……！」

cha0287 レティ

「うふふ、竿もシコシコしちゃうわね。んっ！ む……！ ちゅっ。れろれろ、はあっ、はむ、れろれろ。じゅる、ぺろぺろ。どこが、一番気持ちいい？ じゅるっ、れろ。かりくびのところっ！」

cha0288 レティ

「んぶっ、ちゅっ、ぱくっ、ちゅる！ それとも、先っぽの、れろお！ んっ、ちゅっ、ぺろぺろ、鈴口のところ？ んっ、んんっ！ じゅ、ぴちやぴちや！」

cha0289 レティ

「うふふ、どっちも好きなんて、よくばりさん。え？ 吐息がくすぐったい？ ふー。あは、吐息も愛撫になるものね。唇も、柔らかくて気持ちいいでしょう？」

cha0290 レティ

「たくさんしてあげるわ。とろとろに溶けた、私の口で、おくまふえ……！ んっく。ふうっ、ぴちやぴちや、ずっ！ ずずっ！ はっ、はふう、じゅっ、じゅるっ、んんっ！」

cha0291 レティ

「んっ、はあ……。すっかり元気になったわね。スジが浮かんできて、ガチガチで、素敵。それに……すう……。すごくエッチな匂いがするわ。はあ……ご主人様、そろそろ……」

cha0292 レティ

「ひあっ！？ んっ、急におっぱい触るの、だめえ！ あうっ！ それ、気持ちいい……。指の先で、円を描くみたいに、乳首こりこりこねられたら、あっ、ああ！」

cha0293 レティ

「太いの、挿入れてほしくて、腰がうごっ！ うごいちゃうう〜！ あっ、はあ……！ はあ、はあ。え？ 胸で、ご奉仕？ こう？ おっぱいで、おちんちんを挟んで……んっ、しょ……」

cha0294 レティ

「どう？ 気持ちいい？ こう？ 胸を手で寄せて動かすのね。んっ、ふう……んんー。これでいいのかしら？ ふふっ、亀頭が、胸の谷間から見えてて、かわいい。キスしてあげる」

cha0295 レティ

「んっ、ちゅっ……ぺろ……れろれろ……！ はっ、あ！ ん、これ……動いてたら、乳首がご主人様の肌と、あうっ！ こすれて、感じてきちゃった……。はっ、あっ、はあ！ 我慢汁で、べとべと、気持ちいい……」

cha0296 レティ

「イキそう？ いいわ。私のおっぱいに、ご主人様の精液、たっぷりかけて……。んっ、ああ！ 本気汁でマーキングされちゃってる……。んっ、ああっ、あっうい……」

44

cha0297 レティ

「んっ……精液、ふりふりしてて美味しい……」

cha0298 レティ

「カベに、手をつくの？ や、あ……。足を持ち上げるなんて……。この体勢、えっちで恥ずかしいわ……。わんちゃんがおしっこするときみたい。おまんこが丸見えになっちゃう……」

cha0299 レティ

「やあっ！ 足を、押さえたら、はずかし……。？ はっ、はっ、ああ！ ご主人様の指が、あそこに……。あっ、ああああ！ す、すごい。軽く触られたただけなのに、イッちゃ……。あっ、あああ！」

cha0300 レティ

「後ろから触られるの、だめえ。なにされるか丸見えで恥ずかしい。ふっ、んっ！」

cha0301 レティ

「ごっごっした指が、おまんこの中かき回してる……！ ひいつ、ん！ 二本入れるの、だめえ！ 気持ちよすぎて、足、浮いちゃうう！ ひゃんっ！ あっ、ひうっ！」

cha0302 レティ

「指を、ばらばらに動かすの、だめえ！ あうっ！ ご、ごめんなさい、ご主人様……！ イイわ、良すぎて、飛んじやいそうだから、ゆびっ、とめ、あっ、あああ！」

cha0303 レティ

「ふー、ふー……！ っ？ あっ、うそ、いま、イッたばかりなのに、まだ挿入れちゃダメ……！ っっっ！ だっ、めえ、なのにい……！ あっ、あんっ、ふっ、ああ……」

cha0304 レティ

「はっ、はあ……。んっ、いいて言うまでイクの禁止？ そんなの、できるわけ……ああっ！」

cha0305 レティ

「いつもと、違うところに当たってるう……！ あっ！ ひっ、んくっ……！ カベに、押し付けられながら、突かれるの気持ちいい……！ ひゃんっ！ ご主人様のおちんちんが、子宮まで届いてるう……！」

cha0306 レティ

「はっ、くう……んっ、っあ！ それ、だめ……！ 子宮のところ、ズンズンしたらあ、すぐイッちゃうからあ……！ あっ、ああっ！ 首に、吐息があたって、はっ、はっ、ぞくぞくするの、とまらない……！」

cha0307 レティ

「んっ、ふっ……あっ、はあ……！ これ、無理やりされてるみたいで、興奮しちゃう……！ あんっ！ 無理やりされるの、好きよ……！ 調教も、素敵だったわ……！」

cha0308 レティ

「本当は、ずっと、挿入れてほしかったの。私のおまんこ、気持ちいい？ 私のココはご主人様専用だから、いつでも好きなだけ使っていいわよ。あつ、ああん！」

cha0309 レティ

「ほら、ここ。お腹の痣こんなにくつきりしてるの」

cha0310 レティ

「私は身も心もご主人様の奴隷になっちゃったのっ！ あつ、ああつ、くっ……ひいっ！ ふー、ふー！ いやあ。我慢しなきゃ、いけないのに。もう、だめえ。イク、イク！ あつ……、やあ、止まらないでえ」

cha0311 レティ

「お願い、イカせて……。精液を私のナカにたっぷり注ぎ込んで……。あつ、あつ、あつ、ああ！ イ、イっちゃう！ おちんぼで、イツ……！」

cha0312 レティ

「んっ、はあ……ふー、ふー！ だめえ。立ってられない、のに。ご主人様と壁に挟まれて、逃げられない……。ああっ！ いつ、いまは動いちゃ、だめえっ！ やっ、ああ……精液が、掻き出されて、太ももから垂れてる……」

cha0313 レティ

「あつ、あつ、あっ！ ひあっ！ んっ、ふっ、あつ？ やあ！ ゆっくりピストンするの、イイわ！ はっ、はあ！ これ、焦らされてるせいか、頭が、くらくらする……！」

cha0314 レティ

「あつ、ああ！ どうしよう、すごいのきちゃう！ ふっ……んんっ、ああっ！ んっ、くっ……！ んっ、ご主人様？ あんっ、抜いちゃ、いや……。どうして意地悪するの……？ 首に手を回せばいいの？ ううっ。」

cha0315 レティ

「んんっ、んん……ちゅっ、ちゅば、はむ……ふー、んんっ、れる……。んっ……!？」  
あっ、んんんっ！ 足を持ち上げて、前から挿入するなんて、えっちなんだから……。  
えっ？ まだ、これからって……？」

cha0316 レティ

「ふあああ!？ あっ、うそ……! 挿入れたまま、抱き上げられてる……あっ、あ  
ん！ ふあかい……! これ、だめ。逃げ場が、なくて、一番奥まで、えぐられるう…  
…! あっ、ああ！ お願い、動かないで……!」

cha0317 レティ

「あっ、ひいっ！ んっ、くう……はっ、ああ！ いやあ！ 届いちゃいけないところ  
まで、おちんちん届いちゃってる……! あっ、ああ！ はっ、はあ……!」

cha0318 レティ

「んっ、感じすぎないようにしたいのに、ふあっ、あっ、ああ！ 感じるたび、しがみ  
ついちゃって、もっと、深く繋がっちゃう……!」

cha0319 レティ

「こんなの、ずるいっ！ くっ、ふ……! ああっ！ はあ、はあ。んんっ！ ご主人  
様。ご主人様は、気持ちいい？ ふっ、んん……。私ばかり気持ちよくなってるんじ  
やないかなって、心配になっちゃったの……」

cha0320 レティ

「んっ……! ああっ。はむ、んっ、はあ……はっ、んん。ふう、んっ……。気持ちい  
い？ 本当に？ それなら、よかった……」

cha0321 レティ

「ご主人様、聞こえる？ 警報が、鳴ってるわ。ご主人様のっ、ああ！ 手配した、仲  
間たちが突入してきて……これで、この組織もおしまい。ご主人様、もっと、キスして  
……!」

cha0322 レティ

「はっ、んん。ふう、んっ……。ちゅっ！ れろ。はむ。んっ、はあ……」

cha0323 レティ

「やっと、やっと本当のあなたと触れ合える。ずっとどこかしかったの。すごく気持ちいいのに、あなたに伝えることもできなくて……」

cha0324 レティ

「わかってるわ。このまましていたら、皆に見られちゃうものね。でも、お願い。もう少しだけ。あなたがほしいの。あつ、ああ……！ いいわ、その腰使い、素敵。おへそ側をカリでえぐられるの、たまらない……！ もつとしてえ……！」

cha0325 レティ

「あつ、あつ！ ねえ、私のナカ、どう？ ずっと調教されてたから、心配だったの。ゆるくなったりしてない？ 前よりも、イイ具合になってる？ あつ、んんっ！ それなら、よかったわ」

cha0326 レティ

「ばかね、嫌いになるわけじゃないでしょ。はあ、私はあなたのものだもの。あなたになら、んっ、なにをされても嬉しいわ。っ……！ ひっ、ああ！ んっ！！ ねえ、お願い。ナカに出して。薬のせいなのか、わからないんだけどね」

cha0327 レティ

「中出しされると、お腹がキュウって熱くなって、頭が真っ白になって気持ちいいの。はっ、ああ！ ねえ、いいでしょ？ 調教薬を使つてのセックスなんて、もうできないもの」

cha0328 レティ

「今まで頑張ったご褒美を頂戴？ 私、我慢しないで沢山いくから。ね？ はっ、あつ、ああ！ いい、いいわ……！ あなたのおちんちに貫かれて、イッちゃう。あつ、あつ、ああああ！ んっ、ふー、ふー！」

cha0329 レティ

「ああ、ごめんなさい。先にイッちゃった。あつ、おちんちんが、ナカで膨らんでるう。もう少しなのね？ いいわ。連続でイかせて。あなたにだったら、何度でも、されたいの……！」

cha0330 レティ

「あつ、はあつ、んんっ、はあつ、はあつ！ ああ、すごい汗。イキそうなのね？ いいわ。私のナカにあなたの種を頂戴。あつ、ああ！ きたあ……！ んっ、ふー、ふー！ 子宮に精液そそがれて、イッくうう……！ ……っ！ はあ、はあ……！」

cha0331 レティ

「あー、はあ……。素敵だったわ。私、この体位好きになっちゃいそう。だって、あなたにぎゅーってしがみつけるんだもの。深くて、暖かくて、気持ちいいの。れろっ！ すごい汗ね。帰ってシャワーを浴びないと。ふふっ、なあに？ そんなに頭をこすりつけたらくすぐったいわ」

cha0332 レティ

「におい付け？ お腹の中にいっぱいしたでしょう？ まだ足りないの？」

cha0333 レティ

「しかたないわね。じゃあ、続きは帰ってから。調教中にした中で、好きだったプレイを教えて。なんでもしてあげる」

cha0334 レティ

「その後、政府はゲート社を制圧し、自白剤・並びに調教薬のデータを回収。すでに製造されていたサンプルはすべて破棄。表向きは工場の爆発事故ということになっているけど、ゲート社の裏の顔を知っている有力者たちがそんな嘘を信じるわけもなく、蜘蛛の子を散らすようにゲート社の株は暴落し、政府の抱える企業に吸収合併された」

cha0335 レティ

「（実質上、ゲート社は消滅した。……私の身体に淫紋だけを残して）」

≡ 【メモ】少し間

cha0336 レティ

「最後にえっちをして、潜入捜査は終わったわ。んんっ……足が、もじもじしてるって。どうして口に出すの？ ……仕方ないでしょう？ 思い出したら、興奮してきちゃったんだもの……」

cha0337 レティ

「撮影はこれでおしまい！ まだするって、これ以上何を……。Hをしてるところを撮りたい！？ だめよ、そんなの！ 恥ずかしいわ」

cha0338 レティ

「見られても大丈夫だって言ったのは、任務中だったからよ！ こんなところにカメラがあったら、それどころじゃ、あんっ！ こーら、そうやって「まかそうとしてもダメ……んっ、んんっ……」

cha0339 レティ

「んっ、ふう……むっ、こら、離して……あん……っ、むう……んっ、ちゅ……もう、都合が悪くなったら、すぐキスで黙らせようとする。そういうところ、よくないと思うわ」

cha0340 レティ

「嫌じゃないわよ。ただね、あつ、いま流されちゃってる……。とかね、私だって色々考えてるの。んっ、聞いているの？ ……本当は違う？ なにが？」

cha0341 レティ

「私の映像が欲しかったの？ どうして？ 言ってくればすぐに会いに……。そうね、任務があるときは難しいわよね。私に会えないときに、見ようと思ってたんだ？」

cha0342 レティ

「ううん、すっごく嬉しいわ。あなたが必要としてくれてるんだもの。……あなたが使うだけなのよね？ 約束できる？ うん、じゃあいいわ。少し、恥ずかしいけど……。あなたの撮りたい私をたくさん撮ってね」

≡ 【メモ】 少し間

cha0343 レティ

「全部、脱いだわよ……。あ、ごめんなさい。カメラの撮影ランプを見てたら、裸を撮られちゃってるんだなって、ちよっとドキドキしちゃって……」

cha0344 レティ

「んっ……。そんなに痣を撫でちゃダメ。えっちなのはあなたでしょう？ あなたが我慢できないから未だに消えないのよ？ わかってる？ 8日間、あなたとセックスしなければちゃんと消えるんだから。違うわ。私はちゃんと我慢できます。おねだりなんてしてないわ」

cha0345 レティ

「ん？ あなたの膝の上に座るの？ またがればいいのかしら？ 違うの？ ……床に足を下ろして、カメラの方を向いて……。ちよっと待って、もしかして、今からすごく恥ずかしいポーズをさせようとしてない？」

cha0346 レティ

「あああん！ 足をそんな風に広げたらだめ！ うっ、うう……。丸見えじゃない。ああっ！ ……恥ずかしがってるわりに、濡れてるって、んんっ、しかたないでしょう……。あつ、ああ！」

cha0347 レティ

「んっ……その触り方、だめ……！ 触れるか触れないかのところで、くすぐりたい……！ くうっ、んん……！ あっ、あっ。違うわ、腰が動いちゃうのはあなたが焦らすから……」

cha0348 レティ

「もつと、ちゃんと、触っ……！ あっ、ああ……！ クリをこねるの、いい……！ 指で挟まれるの、すきい……！ んんっ、ふ……はあっ、ん……！ じらさないで……はやく、ナカに、ちょうだい……？」

cha0349 レティ

「ああっ、そんな乱暴に愛液すくつたら、感じちゃうわ。んっ……おちんぼの準備？ 私も愛液ぬるの手伝ってあげる。おちんぼに愛液が絡まる音、えっちで素敵だわ」

cha0350 レティ

「はい、準備できた。腰を浮かせばいいの？ おっ……！？ んおおおー？ ちよっ、まつ、てえっ！ そこ、ちがうわ！ おしり、は、ちがっ！ そっちじゃなっ……！ んああ、ぐうっ、ああ……！ はあ、はあ！ んぐっ、抜くの、だめえ……。アナル、気持ちよすぎて即イギ、するからあ……。ひいんっ！ あっ、んっ、おっ、あっ、おおお……！」

cha0351 レティ

「はあ……はあ……おちんちんが、抜けただけでイッちゃった……。やあ……ちからはいらない……。んんっ！ まだおまんこいじめるの？ 交互にするなんて、はあはあ、んっ、調教してたときより、ハードじゃない」

cha0352 レティ

「ゝっ！ んっ……！ はっ、ん……。アナルでイッたばかりだから、敏感になって、あっ、ああ……！ 連続イキ、しちやいそう……！」

cha0353 レティ

「んっ！ 潜入捜査の前は、手だけでナカイキできなかったのに……すつかり、あつ、ああ！ 癖がついちやって……！ 今だと、はっ、あつ、ああ……！ 先に、こつちで、イカされてっ！ んっ、くう……！」

cha0354 レティ

「Gスポットは、あつ、はあ……おちんちんより、指でいじめられるほうが好きだわ。指の方が、繊細で、好きなところ叩いてくれるから、すぐにイッちゃうのよね……あつ、ふう、はあはあ……！」

cha0355 レティ

「んっ……。どうしたの？ え？ 今日はこつちって……んあつ！ 胸だけではイケないわ。……潜入捜査のときは媚薬があつたでしょう？ んっ、ふうっ……それに、あのとぎだつてイッてはないし。あつ、ああ！」

cha0356 レティ

「なら今日イケるようになるって、そんな簡単に言わないでよお……！ んんっ、ふう、はあ……！ 私、もともと胸は、はあつ、そんなに感じる方じゃないし……んんっ、はあ……！」

cha0357 レティ

「集中してって、言われて、もお……！ んっ、はあ……ふあつ！？ や、やだあ……その触り方、だめえ……！ 指先で、乳首、くりくりしたら、やあ……あつ！ 急に、おしこまないの……！ んっ、うそ、まって、きてる」

cha0358 レティ

「あつ、それ、だめえ。いま、ちくび、摘ままれたら、イッ……！ くくっ！ はあ、あつ、はあ……。いつ、イッちやった……、胸、だけで……」

cha0359 レティ

「ん……？ そうね、胸が気持ちいいのはもちろんんだけど、腰の方まで、びりびりつてきて……中イキよりは短いけど、頭がぼおとして……んんっ、すごく気持ちよかったわ……」

cha0360 レティ

「あんっ、こら。腰をこすりつけないの。そろそろほしくなってきたの？ いいわ。どうしてほしい？ ふふっ、脱がせてほしいなんて、甘えん坊さんね。いいわ、手伝ってあげる」

ニ 【メモ】少し間

cha0361 レティ

「……はい、できたわよ。ふふっ、すっかりやる気ね。よしよし。あっ、こら、引っ張らないで。どこにも逃げたりしないわよ。してみたいこと？ なあに？ ……シックスナインって、お互いになめ合うやつよね？」

cha0362 レティ

「……仕方ないわねえ。いいわ、横になって。……乗るわよ？ 大丈夫？ 重くない？ そう、よかつ、ひゃん！ まだ準備してるでしょ？ いたずらしないの！ まったく… …。んっ、これでいい？ 届くかしら？」

cha0363 レティ

「それじゃ、舐めるわね。はあ……あむっ……！ んっ！ ちゅ……レロ、ぺろ……ふうっ、んん……！ ぷはっ、んっ！ この体位、難しいわ……！」

cha0364 レティ

「あなたを気持ちよくしてあげたいのに、ああっ！ 敏感なところを舐められてっ、んっ、くう……はあ！ 見えないせいで、はあ……余計興奮しちゃう……！ ふー、ふー、あむっ……んんっ、ちゅ、ぺろぺろ」

cha0365 レティ

「じゅる……！ れろー、んっ、はふっ……んむ、じゅぷっ、ちゅっ、ぺろ。どお？ 気持ちいい？ よかった。ええ、私もすごく気持ちいいわ。あなたの舌使いで、あっ、ああ！ 腰が溶けちゃいそう。ふっ、んん……！」

cha0366 レティ

「どうする？ このまま、一回イッておく？ あは、ばれちゃった？ そうなの、私、もう我慢できなくてあつ、ああ……！ はやく、ちようだい……？ ……？ 立ってするの？」

≡ 【メモ】 少し間

cha0367 レティ

「こんなところに立ったら全部丸見えじゃない。それがいいって……もう。あつ、んん……。……。？ はやく、挿入れて。意地悪しないでよ。……そんなこと言うの？ ……つ、わかったわよ」

cha0368 レティ

「これから、太くてかたあいおちんちんをおまんこに挿入れてもらいます。よおーく、見ててね。……。？ どうしたの？ はやくいれて」

cha0369 レティ

「おねだりが足りてないって……これ以上なにをさせたいの？ ご主人様と呼べ？ それは……だめ」

cha0370 レティ

「どうしてって、ダメなものはだめなの。挿入れてくれないなら私が自分で……んっ、こら、おちんちんずらさないの。やあ……はやくほしいのにい。いじわるしないで……」

cha0371 レティ

「ひゃんっ！？ あつ、ああ！ いつ、痛い！ お尻、叩くの、やあ……！ 呼ぶまで叩くって、ひどいわ。あつ、ああ！ はあ、んんっ！」

cha0372 レティ

「だめえ……はっ、はあ……乱暴にしないで。そんなにされたら、私……、ぞくぞくしちゃうっ……！」

cha0373 レティ

「うう……そうよ、私はあなたにいじめられるのが好き。ふっ、ん……あのときはあなたに調教されて、興奮した。ご主人様って呼ぶたびに、ぞ……あつ、ああ！　すぐイチちゃいそうになって……！」

cha0374 レティ

「あつ、ああ！　あなたをご主人様って呼んだらあの時みたいに、歯止めが利かなくなっちゃう。ん、ひいつ……！　いたいのも全部気持ちよくなっちゃうって、だめなお。あつ、ああ！」

cha0375 レティ

「素直に、んっ、なって、はあ……いいの？　本当に？　私はご主人様に乱暴に扱われない雌犬です。ご主人様、私をぐちゃぐちゃにして……！」

cha0376 レティ

「お、っ！　あつ、んっ、はあ、はー！　あ、ああっ！　ふー！　ふー！　おっ、お、お、おっ！　イグウ……！　お？　おっ、おおっ、んっ！　んほおおお！　っひ！　あ、ああっ！　ひうっ！　んぐっ、あ、っ……！　ふー、ふー！　あぐっ！　イグ！　イグイグ！」

cha0377 レティ

「はー、はー……！　あつ、あ！　はいい！　ごめんなさい、そうですう！　私は、淫乱を隠そうとしてるえっちな女なんですっ！　隠そうとして、ごめんなさいいっ！　お、ああ！　おっ、お、お、おっ！」

ニ【収録メモ】レティ、息を整える

cha0378 レティ

「ふー！　ふー！　……酷いわ、ご主人様。こんな、下品な声を出させるなんて……。お、おっ！　私が下品なセックスにハマって、あなたが傍にいない間に浮気したらどうするつもり？」

cha0379 レティ

「そんなこと、するわけないって？ どうしてそんなこと言いけるのよ。あうっ！ はっ、ああ……！ あなたの以外で満足できるわけがないって？ んっ、自信家ね、ご主人様は。何人の女に同じことを言ったの？」

cha0380 レティ

「……あのね、今日はあなたが急にうちに来たでしょう？ だから、いろいろ用意してなくて……アフターピルがね、うちにないの」

cha0381 レティ

「だからっていうわけじゃないのよ！？ ただ、あなたさえ嫌じゃなければ、ここにね。たくさん注いでほしいなって」

cha0382 レティ

「ひあっ！ おちんちんが、ナカで硬くなったあ……！ んっ、ふふっ！ 私に種付けするところ想像して、興奮しちゃったの？ いいわ、たくさん出して。私のおまんこに、消えない痕をちょうだい」

cha0383 レティ

「んっ、ふう……あっ、ああ！ いいわ、奥まで届いて、るっ……ふあっ！ あっ、んっ、んんっ！ そこ、一番奥のところ、気持ちいい！ もっとぐりぐりしてえ……！ はっ、はっ、あ、っ………！！」

cha0384 レティ

「んっ、くうっ………！ はあ……はっ、あああ！ 素敵、あなたのおちんちんが、私を妊娠させようとしてる………！ ん、ひっ………！ らめえ……、これ以上締めたら、はっ、ああ！ イッちやうのに、お腹がキュンキュンして、止まらない………！」

cha0385 レティ

「子宮に我慢汁塗り付けて、孕ませる準備してる………！ あっ、はあ………！ 妊娠セックス、気持ちいい………！ はっ、おっ、おおっ！ ふー、ふー！ いいわ、好きなタイミングでイッて………！ 一番奥に熱くて濃いのを、ぶちこんで………！」

cha0386 レティ

「ああ〜！ 嬉しい！ あああっ、んっ、はあ……！ 精液が、注がれてる……！ おっ、お、お おっ！ もっとたくさん子宮に届くように、ぐりぐりしてえ……！ ふー、んんっ！ はあ……はあ……」

cha0387 レティ

「お腹、たばたばになっちゃった。んっ……。疲れちゃった？ 休んでからもう一回する？」

cha0388 レティ

「ご主人様って呼んだら元気になるって、そんなわけ……。ひあっ！？ んっ、……回復するの早すぎよ。ご主人様。次は私の事もイカせてくれるの？ それは楽しみだわ。それで？ どうやって気持ちよくしてくれるの？」

cha0389 レティ

「ちよっ、ええ！？ 流石に後ろから無理よ。持ち上がらないって……！ ひああ！？ すごい筋力ね、ご主人様。はあ……。カメラの事、すっかり忘れてたのに、またこんなポーズさせられるなんて……！」

cha0390 レティ

「あなた、私に足を開かせるの好きすぎない！？ すごく恥ずかしいんだからね！？ あっ、ああ！ こら、まだ動いちゃ……！」

cha0391 レティ

「あっ、ああ……。後ろから抱きかかえられて、道具みたいに、おまんこ使われちゃってる……！ んくっ……ふう、ああ……！ 乱暴なピストン、すてき……！」

cha0392 レティ

「ひいっ、んんっ！ はっ、はっ、優しいエッチも好きだけど、意地悪されるほうが、わけがわからなくなっ、いいの……！ んっ、はああ！ 気持ちいいことだけしかわからなくて、あっ、ああ！ ご主人様と、いつもより深く、繋がってる気がするの……！」

cha0393 レティ

「んっ、くう……ふー、つう！ あっ、ああ！ 撮られてるのにい、カメラの前で、イツちやう。イグ！ つ、あ、っ！ くくっ！ やっ、ああ。まだ、止まったら、ダメえ。もっと、頭ばかになるくらい、おまんこいじめてえ……！」

cha0394 レティ

「ふー！ んっ、あああ！ ご主人様の精液が、おまんこに塗り付けられて、えっちな音してる……！ こんな、絶対妊娠しちゃう……！ はっ、おっ、お、おっ！ 深い、いい！ もっと奥まで、ずんずんしてえ……！ あっ、ああああ！」

cha0395 レティ

「あー、あああああ！ また、気持ちいいのがくるう……！ んほおおお！ 腰が、溶けちやうう！ この体位、すてきい！ 身動きが取れなくて、イクときに、足がピーンって伸びて、あっああ！ 気持ちいいの止まらないのお……！」

cha0396 レティ

「んっ、ああ……。ふー、ふー！ あっ、録画ランプがチカチカしてるう……。これで、録画はおしまい？ なあに？ あっ、はあ、んっ！ あなたの言う通りに、言えばいいの？ はあ、あ……」

cha0397 レティ

「この映像は彼の、あうっ！ データベースに保存されて、んっ、ああ！ 一年間、誰もログインしないと、政府に自動で送られて……いやあ！ そんなの、だめっ！ みんなに、映像みられちゃうう……！」

cha0398 レティ

「んっ、はあ……！ あなたに何かあるなんて、考えたことはないわっ。私が、あなたを守るもの。んっ、そう、よね……。私たちがちゃんとやれば、大丈夫、よね……！」

cha0399 レティ

「大好きなあ、彼と、頑張っ……次の任務も、こなしま……んっ、んん！ あっ、ああ！ だめっ、いくう！」

「いつ、じょう、でえ……！ ふー、ふー！ レティの、えつちな記録を、終了します……！ またね……！ んぎっ！？ んっ、おおおお〜！」